



CKDサポートチームのご紹介！！

CKDサポートチームとは

目的：患者の多角的且つ総合的な支援と地域のCKD対策を充実させる

開設の意義：

- ①患者と各種医療者間のコーディネーション
→職種に応じた作業を進める事で、CKD患者を総合的、かつ効果的に支援することができる
- ②チーム医療の充実
→より高い効果（患者へのサービス）をもたらし、チーム力が高まる
- ③透析へのスムーズな導入
→基礎知識の習得や気持ちの準備ができ、その後のセルフケアを含めた透析生活にスムーズに移行できる可能性が高い
- ④地域への貢献
→院内に通院する患者だけでなく広く地域住民に医療情報を提供し、疾病予防の啓蒙・啓発活動を行う
- ⑤厚生労働省の方針に沿ったCKD対策
→CKD啓蒙活動の重要性が指摘され、医療従事者、医療保険者、行政機関への啓蒙が進められている

構成メンバー

- 医師：岸本医師（CKD 外来）
 看護師：中原顧問（CKD 看護外来・透析センター）
 土田副部長（看護部）・河田副部長（地域医療連携室）
 川崎師長（外来）
 薬剤師：宮本副部長（薬剤部）・大壁薬剤師
 管理栄養士：小山科長（栄養科給食課）
 理学療法士：腎臓リハビリテーションチーム
 医事2課：丸課長



活動内容

- ①診療部門の充実 腎臓内科・CKD 専門外来
- ②看護外来の開設 CKD 看護外来の開設
- ③患者教室の開催 定期的な患者教室を毎月開催
- ④地域活動 地域連携
CKD 予防のためのセミナー・検診
広報活動・研究活動など
- ⑤その他

CKD（慢性腎臓病）に関する様々な知識や情報を提供するための教室です！

開催月	テーマ（予定）	担当
4月 月（土）	腎臓の働きとCKD	腎臓病診療科 岸本医師
5月 月（土）	腎臓病の検査と治療	腎臓病診療科 岸本医師
6月 月（土）	腎臓病の食事療法と薬物療法	腎臓病診療科 岸本医師
7月 月（土）	腎臓病のセルフケアと透析	腎臓病診療科 岸本医師
8月 月（土）	CKDと生活習慣病	腎臓病診療科 岸本医師
9月 月（土）	腎臓病と高齢者	腎臓病診療科 岸本医師
10月 月（土）	腎臓病と認知症	腎臓病診療科 岸本医師
11月 月（土）	腎臓病と骨格筋減少	腎臓病診療科 岸本医師
12月 月（土）	腎臓病と心臓病	腎臓病診療科 岸本医師
1月 月（土）	腎臓病と糖尿病	腎臓病診療科 岸本医師
2月 月（土）	腎臓病と高血圧	腎臓病診療科 岸本医師
3月 月（土）	腎臓病と脂質異常症	腎臓病診療科 岸本医師

【開催日時】毎月第1土曜日（5月・11月・1月を除く）
11:00～12:00

【開催場所】浅香山病院メディカルタワー
西館6階講義室

※事前申し込み及び参加費は不要です！

腎臓病診療科の医師や看護師が中心となり、地域連携を推進しています。お気軽にご参加ください！
ご参加の旨を一緒に伝えて頂くことも可能です！

浅香山病院

CKD（慢性腎臓病）教室のご案内

2019

各部門の声 ①教室で伝えたい事 ②講演を行う際の工夫

看護師：中原 宜子顧問

- ① 腎臓の大切さと日常生活の工夫（知識）で悪化を遅らせることができることを知ってもらいたいと考えています。
- ② わかりやすくイラストなどを使いお話ししますが、難しい用語もできます（笑）。内容は腎臓の働きを理解していただいた上で血圧や体重測定の習慣、食事や日常生活で気を付けることをできるだけ具体的にお話するようにしています。

薬剤師：大壁 和輝

- ① CKD 患者さまは、特徴的な薬が多いため、どうしてこの薬を飲むのか？この薬はどういう働きをするのか？飲まないときの様なデメリットがあるのかを説明し、アドヒアランスを上げてもらいたいと考えています。
- ② 薬について専門用語を用いて説明すると、ついていけなくなります。そこで薬の話は可能な限り簡単な言葉を使うよう心掛けており、薬の紹介も“ACEI”や“ARB”ではなく、〇〇プリル・〇〇サルタンといった、薬効成分名や具体的な製品名で紹介しています。

栄養科：小山 美也子科長

- ① 食事療法を行っていくにあたって、食塩やたんぱく質（場合によってカリウムやリンも）の制限があり、窮屈に思われるかもしれませんが、CKD 患者さまご自身が病気について十分に理解した上で、自らが主体となって治療および食事療法に取り組んで頂けるようにサポートしていきたいと考えています。
- ② CKD 教室の患者さまはご高齢の方が多く、食事療法は食塩・たんぱく質・エネルギー・カリウム・リンなど多岐に渡り注意しなければなりません、難しくならない様にテーマを絞ってお話するようにしています。

リハビリテーション部：腎臓リハビリテーションチーム

- ① CKD の病態を理解し、自分の体力を知ってもらいたいと考えています。
- ② リハビリでは年二回、講演の機会を頂いている為、一回目でCKDの病態や症状、合併症をわかりやすく説明し、CKDによって体力低下やADL低下が起こりうる事を説明し理解して頂きます。二回目では実際に自分の現在の体力を知ってもらう為に体力測定を行いました。また、パンフレットを用いて、簡単な運動を実際に一緒に行う事で、“これぐらいなら出来そうだな”と思って頂ける様説明、実践しています。患者さまご自身で病態や体調を管理し、運動をする事の重要性を理解して頂く事を目標に取り組んでいます。

